

ATACの東日本震災支援プロジェクト(AHS)

＜我々は東北で何が出来なのか＞

～第三次調査訪問 IN 盛岡（2/28～3/1）～

ATAC運営副委員長

明石 祐二郎

東北をもっと知るために「第10回もりおかで縁を結ぶ交流会」に2名で参加しました。この交流会は盛岡商工会議所主催で通勤族に盛岡をもっと知ってもらおうと毎年開いているもので、官庁機関ではなく盛岡の企業の人たちと直接会ってATACの主旨を御理解頂くために参加しました。

1部は盛岡出身の作家斉藤純様の＜私の好きなもりおか＞の講演：人間性、食べ物、風景など。2部は54名が6グループに分かれて懇談会が1時間20分程あり、ATAC2名も別のグループに分かれ参加しました。グループ内で今回訪問の主旨を説明でき、今後のアプローチの方法についてもアドバイスを頂きました。3部は交流会で元持商工会会頭の挨拶で始まり3副会頭も出席されており「もりおかを知ってもらおう」との主旨がよく伝わりました。同じグループだった人に紹介を受けたりして35名位の人と交流できました。

今回の訪問で昨年9月に訪問した岩手県庁科学ものづくり振興課には岩手県工業技術センター、岩手県工業クラブの新しい窓口を御紹介頂きました。2回目の訪問で親身になってご紹介頂き、東北人の心暖かさがかいま見られ、回数を重ねるごとに絆が深まるのではと考えます。訪問先で得た情報を列挙すると、

1) 岩手県工業技術センターでは全ての技術支援で人材不足であり処理ができていないし補助金の制度も大いに活用したいが人材不足でできない。又企業からの要望（申請など）に対しての良否の判断など、アドバ

イスする人材がいないと、ないないづくしであり、是非ATACの支援が欲しい（出来れば常駐で）。今まで技術センターでたくさんことをやって来たが十分企業を満足させることが出来ていないので来年度は支援企業の満足度をアップしたい。

2) いわて産業振興センターからはまず専門家登録をして欲しいとのことで早速登録者を募集し登録します。登録すると同センターでは企業からの支援要請された内容を吟味し、登録メンバーの中から適材適所の人材を検索して企業に推薦するとのことです。

3) 岩手県工業クラブでは大手の1次、2次下請けに対し改善活動、トヨタ看板方式などを行っているが、3次まで手が廻らない状況なので是非支援をお願いしたい。今ATACの支援が必要な時期にきています。又このクラブでは異業種交流もやっておりリーダーの片山氏も紹介したいと。

ATACに対する期待をまとめると、

- ①すべての面で人材不足なので是非支援をお願いしたい。
- ②仕事を再開してもユーザーが無くなっている企業が多いので、こんな物が出来ないか？こんな物が出来ますがどうかと紹介して欲しい。
- ③出来るだけ訪問回数を増やして心を通わせ、安心感、信頼感を得る必要がある。
- ④北上、一関、奥州市など製造業の多い地域を訪問することも必要と思われる。

今後、東日本地域の復旧、復興に少しでも寄与できるように努力していきたいと思います。

第17回ATAC社長懇話会記録

平成25年2月15日に18名の企業トップの参加を得て利昌（リョウ）工業株式会社尼崎工場を見学し、利倉（トウ）暁一会長の講話を伺いました。

社長懇話会は中小企業の経営者の交流にATACがお手伝いできればと考えて2003年にははじめたものです。



◆当社の生い立ちと製品の特徴

現会長の御父君が1921年に大阪で絶縁材料の製造を始め、戦時中に尼崎に疎開してきたのが尼崎工場の始まりです。現在は、滋賀工場（栗東市）、湖南工場（湖南市）のほか、中国の無錫にも進出しています。

製品は、エポキシ樹脂による乾式絶縁方式の変圧器、フェノール樹脂を使ったプリント配線用銅張積層板など、絶縁材料を使った製品が特徴です。

◆工場見学

展示室で製品の説明を受けた後、製造工程、3研究所を見学しました。

<製造工程>

当社が日本で始めて製造した、コイルを絶縁体のエポキシ樹脂で封止した乾式トランスの製造ライン、絶縁材の原料のフェノールワニスの自社製造ライン、ワニスを繊維に含浸させるプリプレグ製造ライン、銅箔とプリプレグを30段重ね、2000トンプレスで加圧する積層板製造ラインなどを見学しました。なお、滋賀工場には全自動の2500トン25段プレスが稼働中です。

<研究試験設備>

化学技術研究所、電機研究所、商品開発研究所を擁し、多くの研究試験装置を保有している。

また雷による変圧器などの絶縁性試験のための120万ボルトの高圧実験室を見ました。

◆利倉暁一会長の講話

一時間にわたり利倉会長から経営に関連した貴重なお考えを聞けました。その幾つかを挙げると、

- ・企業の組織を強くすることを心がけてきた。
大きくすることは望んでいない。
- ・企業の目的は社会に貢献することである。

- ①利益を出して納税で国家へ貢献、
- ②リストラのない安心な会社にして社会へ貢献、
- ③役に立つものを生み出すことで未来に対して貢献。

・私の経営は守りの経営である。

- ①自主独立（株式は一族で保有）、
- ②資産は決して売らない、
- ③社員は絶対リストラしない、を実行している。

・大企業は戦略さえあやまらなければ潰れないが、小企業はそうはゆかない。小企業ほど経営は難しい。

・日本企業が生き残っていくためには、

- ①引き合うものをつくる、
- ②引き合うようにつくる（合理化）、
- ③引き合うところでつくる（海外進出）、

の3つの道があるが、利昌は雇用を守るために①の引き合うものを作ってきた。

・当社はOnly oneだけでなく、Last oneになることも重要であると考えている。Last oneは苦しくても最後まで続けると同業が止めていき、利益を生む事業になる。しかしLast oneだけでは時代に取り残される。改良を加える、全く新しいものにチャレンジすることも大事である。

・カントリーリスクについては、いざという覚悟がないといけない。ズルズルでは止めるに止められず、先方も止めさせてくれない。「あげる」と言えるように心がけるべきである。

利倉会長の凛としたお話しに全員聞きほれ、感服した1時間でした。

◆交流会

交流会では利倉会長と企業参加者、ATACメンバーの間で有益な情報交換が行われ、本会の目的が達せられたと自負しています。

（明石・池田隆）



大阪科学技術センターATAC第17回社長懇話会 於：利昌工業株式会社 2013.2.15

ATAC第10回講演会を開催しました

～中小企業の秘策を一挙公開～

去る3月7日大阪科学技術センター8F中ホールにて、ATAC第10回講演会を開催しました。たくさんの方々にご参加頂き有意義な会とすることができましたので、感謝の念と共にご報告致します。

●はじめに梶原運営委員長ご挨拶

10回目を迎えた今回のひとつめのテーマである中小企業における研究開発の取組みの話は、クライアント様のお許しを得て実例を挙げてお話させて頂くことができました。迫真に迫る話をお聞き頂けると思います。またATACでは東日本大震災の復興支援にも取り組んでおりますが、その中でやはりBCPの大切さを痛感しています。関西では阪神大震災の経験があるにも関わらず、BCPへの取組みが遅れているのではないかと危惧しておりますが、本日の講演をお聞き頂いて、今一度自社のBCPについて考えて頂く機会になればと思います。

また、特別講演として、約3年前のATAC社長懇話会でもご講演頂きました、大阪から世界に誇るハードロック工業株式会社の若林社長にもご講演頂きます。交流会を含め親交を深めて頂き、有意義な会になることを願います。

●「中小企業の技術開発への取組み ーATACコンサルティング事例からー」

池田 隆果

中小企業では資金やリソースが常に課題となる技術開発を、いかに進めるかについて、クライアント様の許可を得て、2社4事例の具体的な取組みを発表させて頂きました。

1社目の株式会社吉井商店では日本の伝統技術である金箔の製造工程を画期的な最新技術の導入により一気に合理化した例と、バクテリアセルロースという新素材を活かしたあぶらとり紙の開発の話。2社目は富士高周波株式会社のレーザー焼入れとレーザー

クラディング技術の開発についてです。新技術開発・導入を検討開始する際の文献調査、特許調査支援、開発手法・解析方法の指導、川下企業、大学、研究機関とのコンタクトの支援、そして国が実施する補助金の申請支援など、各ステップに応じた支援を紹介しました。ご依頼企業様の問題解決への決意さえあれば、どこまでもとことんご協力致します。



●「まだ間に合います！今すぐ取り組もう！」

事業継続計画(BCP)」 田村 順造

昨年、BCPがISO化され、日本でもJIS化が進められています。また2006年には、会社法に危機管理規定が制定されました。コストや手間を理由にBCPを避け続ける訳には行かない状況になりつつあります。しかしせっかく取り組むのであれば、役に立つ、生きたBCPにしなくては意味がありません。BCPというのは個々の企業それぞれに応じたカスタムである必要があり、更に一度作成したからと言って安心して放置しては意味がない生き物であることを認識しなければいけません。そして事業、顧客の保全、従業員とその家族の命と生活を考えながらBCPを作成していくプロセスにこそ重要な意味があるのです。市販のマニュアル本や一般のチェックリストをコピーするだけではいざと言うときに役に立つBCPとは言えません。

顧客からの信頼、海外取引の条件クリアはもちろんのこと、社内における中核業務の認識力、組織体制の強化、企業価値の向上など、知られざるBCPの価値を伝え、支援したいと思います。

●特別講演「オンリーワン商品開発の秘訣」 ハードロック工業株式会社

代表取締役社長 若林 克彦 氏



ハードロック工業（株）の“絶対に緩まないネジ”は、台湾新幹線、東京スカイツリー、最近では住宅産業にも採用されていて、第3回モノづくり日本大賞の「特別賞」、日本イノベーション大賞の「大賞」等々、数多くの賞を受賞され、社長ご本人も「旭日双光章」ほか多くの栄誉に輝いておられます。

特別講演は、アイディアの原点となった10歳の時の「種まき機」発明の紹介から始まり、青年実業家として「Uナット」の発明、それを踏まえた「ハードロックナット」の発明の経緯が紹介された。社長の言葉を借りると、「常に好奇心をもって『欠点』を探す

こと。商品に完成品などありません。『完成』と思った時点で思考停止してしまうでしょう。逆にその商品に足りない点が見つかった時点で、発明の半分は成功しているのです」とのことで、①世の中の商品は全て未完成（60～70%程度）、②世の中のは、組合せで成り立つ、③いいアイディアはすぐ形にするという「アイディア開発の極意」を説明され、世界で勝つにはオンリーワン商品が必要であるという持論を展開され、商品開発の厳しさ、とりわけ新興諸国からの特許侵害への対応など多くの教訓を聴くことができましたが、社長の気さくなお人柄から難しいお話も肩がこらずにお聴きすることができました。

講演で述べられた「オンリーワン商品開発の秘訣」は、我々 ATAC の会員が中堅・中小企業のお手伝いを行う際に、企業の方と共に疑問点を探り、直ちにその対応策を実行に移すという「コンサルティングの秘訣」に通じるものであり、その取り組み方の重要性を痛感した次第です。

（長岡・廣谷）



編集後記

最近 ATAC 関連の行事が多く開催されている関係で、前号に続いて「企業PRコラム」や「書評」の欄を省いて行事の紹介記事のみにになりました。

巻頭頁は現在 ATAC が注力している東日本震災支援プロジェクトの関連で、訪問を重ねて現地との親交が深まっている状況をお伝えしました。利昌工業の利倉会長の会社経営に関する講話にはグッと来るものがあると思います。また、ハードロックの若林社長の講演は企業で新製品を開発する際のヒントを与えてくれるものと確信しています。

（池田（隆））

ATAC事務局 *ATACニュース、Webに関するご意見、ご要望なども、どしどしお寄せ下さい。

〒550-0004 大阪市西区靉本町1-8-4 一般財団法人 大阪科学技術センター技術振興部
Tel 06-6443-5323 E-mail atac@ostec.or.jp

詳しい事業内容、最新情報はコチラからご覧ください ▶▶▶ URL <http://www.atac.ne.jp>